

「第3次坂戸市環境基本計画」策定に向けた

坂戸の未来の環境を語ろう！

次世代環境ワークショップ

実施結果報告書

令和5年1月

株式会社 知識経営研究所

目次

1 坂戸市大学生高校生ワークショップの概要	1
・ワークショップの目的	1
・開催日時・討議テーマ・参加者	1
2 坂戸市大学生高校生ワークショップのまとめ	2
・第1回ワークショップ	2
・第2回ワークショップ	13
・今後に向けて	22

1 坂戸市大学生高校生ワークショップの概要

ワークショップの目的

現在、本市では令和6年度を初年度とする第3次坂戸市環境基本計画の策定作業を進めており、市民の声を計画に反映させる一環として、将来を担う若い世代の意見やアイデアを募ることを目的にワークショップを開催した。

カーボンニュートラル実現の目標年次である2050年には40代となり、我が国を担う世代である市内に在住または在学する大学生、高校生と、ZOOM（WEBミーティングシステム）を活用したグループワークによる意見交換を行った。

開催日時・討議テーマ・参加者

開催日時	討議テーマ	参加者数
令和4年 11月20日（日） 10時～12時	1 坂戸市の環境の良いところ、改善したいところ 2 効果的な情報発信方法の立案	●学生 16名 ●事務局 3名 ●コンサル 4名
令和4年 11月27日（日） 10時～12時	3 市民や事業者、子どもから大人までが環境活動に参加できる仕組み・工夫、イベントや情報発信のアイデア	●学生 19名 ●事務局 3名 ●コンサル 4名

【参加学校（計20名）】

市内大学2校：城西大学（6名）、女子栄養大学（2名）

市内高校4校：坂戸高等学校（3名）、坂戸西高等学校（3名）、山村国際高等学校（3名）、筑波大学付属坂戸高等学校（3名）

2 坂戸市大学生高校生ワークショップのまとめ

第1回ワークショップ

- | | |
|------|--|
| ■日 時 | 令和4年11月20日（日）10時～12時 |
| ■参加者 | 大学生7名（城西大学6名、女子栄養大学1名）
高校生9名（坂戸高等学校（3名）、坂戸西高等学校（3名）、
山村国際高等学校（3名））
事務局（環境政策課職員）3名
コンサルタント（知識経営研究所）4名 |
| ■方 法 | ZOOMブレイクアウトルームを使用したグループワーク |

実施プログラム

- 1 開会あいさつ【事務局】
- 2 ワークショップ概要説明【コンサルタント】
 - 坂戸市の環境に関する取組み・方針について
 - 討議テーマについて
- 3 グループセッション（自己紹介・意見交換）【3グループ：A、B、C】
 - テーマ1 坂戸市の環境の良いところ、改善したいところ
 - テーマ2 効果的な情報発信方法の立案
- 4 各グループの意見発表【コンサルタント】
- 5 閉会あいさつ【事務局】

説明スライド

●スライド1

大学生高校生ワークショップ ●本日のスケジュール	
1 開会あいさつ	5分程度
2 討議テーマについて	105分程度
(1) 討議テーマについてのスライド説明	10分程度
(2) グループセッション：自己紹介・意見交換	80分程度
(3) 各グループの意見発表	15分程度
3 閉会あいさつ	5分程度

●スライド3

●坂戸市の環境に関する取組み・方針

- 坂戸市では「第2次坂戸市環境基本計画」という坂戸市の環境や自然を守り、推進していくための方針をまとめています。
 - この計画では「**みんなでつくる水と緑の住みよい環境のまち さかど**」を目標として、その実現に向け、様々な活動内容を定めています。
- ↓
- しかし、近年の地球環境をめぐる変化は大きく、この計画を社会情勢に合わせて見直すこととしました。
 - ・カーボンニュートラル（低炭素化から脱炭素化へ）
 - ・気候変動への適応（環境への影響に備えること）
 - ・資源循環（使い捨てプラスチック、食品ロス）の問題
 - ・持続可能な開発目標（SDGs）

●スライド5

●本日の討議テーマ その1

坂戸市の環境の 良いところ、改善したいところ

- 10年後も守り続けたい環境
- こんなまちになってほしい
- こんな取り組みや活動が広がってほしい
- 新しくこんな取り組みが実現すると良い

あまり難しく考えずに、
坂戸の環境について、感じることを、思うことを
自由に意見してください。

●スライド2

「第3次坂戸市環境基本計画」策定に向けた **坂戸の未来の環境を語ろう！** **次世代環境ワークショップ**

坂戸市環境産業部環境政策課
株式会社 知識経営研究所

●スライド4

●皆様に考えていただきたいこと

地球温暖化による異常気象の頻発や食糧生産への影響、資源の枯渇、ごみの最終処分場の不足、海洋プラスチックなどの問題、生物多様性のバランスの前壊、外来種の増加、みどりの減少、大気汚染や水質汚濁、ごみのポイ捨て……

私たちが暮らす坂戸市は、身近な問題から地球規模の問題まで、さまざまな環境の課題に直面しています。

このような課題に対応し、

「脱炭素な暮らしを育むまち」
「豊かな水辺・自然と人がともに生きるまち」
「資源循環に配慮した暮らしを育むまち」
「健康で安全・安心に暮らせるまち」

そんな坂戸市を皆さんと一緒に未来へつないでいきたい

そのために、若いみなさんの声を聴かせてください

●スライド6

●本日の討議テーマ その1

■環境基本計画のカバーする分野として

地球温暖化、 気候変動	二酸化炭素、化石エネルギー、太陽光発電、再生可能エネルギー、水素エネルギー、省エネ・節電、COOL CHOICE、電気自動車、燃料電池自動車、建物の省エネ化、森林吸収など
ごみ 資源循環	ごみ減量、ごみの分別、使い捨てプラスチック、資源ごみ、リサイクル利用、食品ロス、海洋プラスチックごみ、4R、エコバッグ、もったいない など
自然・みどり 生物多様性	みどりの減少、浅羽ビオトープ、高麗川、越辺川、ふるさと遊歩道、桜並木・桜、城山、神社仏閣の樹林、水辺、湧水、希少な動植物、外来生物、自然とのふれあい、公園、街路樹 など
安全・安心、 快適	大気汚染、光化学スモッグ、PM2.5、水質汚濁、騒音・振動、化学物質、環境基準、ごみのポイ捨て、美化清掃、まちなみ景観、集中豪雨による災害・防災対策、熱中症対策 など
エコ活動 環境学習	エコなライフスタイル・ビジネススタイル、環境教育、環境学習、環境講座、環境イベント、環境リーダー・ボランティア、環境情報、パートナーシップ など

●スライド7

● 本日の討議テーマ その2

環境活動について無関心層の興味をどう引き付けるか

- 坂戸の環境をより良いものにしていくためには、行政だけでなく、市民や事業者の協力が不可欠
- これまでも環境活動に関する情報発信を実施しているが、興味があれば、情報は取得してくれない。
- 意図しなくても環境活動に関する情報にふれさせるための工夫が必要
 - 既存の媒体（広報さかど、SNS以外工夫）
 - 伝える情報の内容（活動は楽しそう、簡単そう、活動の目的は違うがついでに環境向上にも貢献できる など）

●スライド8

● 本日の討議テーマ その2

- 公式Facebook、公式Twitterの登録者数を上げるための工夫
- Youtube、インスタなどの画像、動画の活用アイデア
- 意図しなくても環境活動に関する情報にふれさせるための工夫

➢ 皆さんの意見をふまえて、庁内において実施手法を検討し、試行してみる

●スライド9

● 皆様をお願いしたいこと

- 発言をしたい時は、挙手アイコンか手を振って司会者に合図してください。
- 参加者全員が対等な立場にあり、自由な発言を行うことを尊重しましょう。
- 各参加者の発言を尊重し、はじめから否定したり、話を遮るような発言をしないよう配慮しましょう。
- 各参加者ができるだけ多く発言できるよう、発言時間が長くないよう配慮しましょう。

グループセッション意見概要

A グループ

出席者：

- 学生（5名）
- 坂戸市環境政策課（1名）
- コンサルタント（1名）

【気になる環境問題】

- 水質についての研究を行っている。水質改善に興味がある。
- ごみの分別など、ごみの問題について興味を持っている。
- 昆虫が好きで、様々な昆虫が生息できるような生物多様性に興味がある。
- 研究室の活動で月に1回川の美化清掃（かわガール）を行っている。川のごみであったり、水質などについて意見交換ができればと思う。
- 市外から通学しているが、自分の住んでいるまちと違う点について話ができればと思う。

【坂戸市の環境の良いところ・改善してほしいところ】

◆坂戸の自然について

- 坂戸の自然は、公園や河原もあり、都市部よりも自然が豊かであると思う。
- 坂戸の平地林（雑木林）を良好な状態に保つためには、人の管理を必要とする。しかしながら、なかなか人手が集まらなかったり、活動されている方の高齢化といった問題がある。
- かわガールの活動をインスタやフェイスブックなどを通じて投稿しているが、「いいね」の反応を示してくれるのは高齢の方が多い。
- 市のイベントなどについても、チラシなどを通じて周知を行っているが、参加される方が固定化しているという現状である。
- 他県の河川水の検体と比べると、市内の河川はろ過をするまでに時間がかかったり、ろ過フィルターが目詰まったり、変色したりするなど水質はあまりよくない。
- 水の濁りなどを見ると、雨の翌日は濁りが酷かったりする。橋の下に溜まるごみは、どうしても取れないので、川に流れてくるごみは多いという印象はある。
- 川のごみは、世界的に問題となっている海洋プラスチックの問題と関係が深い。まちなかにポイ捨てされたペットボトルは、風などによって川に落ち込み、ゆくゆくは海に流れ着く。プラスチックは分解されずにマイクロプラスチックとして海を漂う。

◆ごみ問題について

- ごみの分別などは、母に任せっきりだったりする。あまり分別に気を使ったことはないので、何曜日に出すのか知らない人は多いと思う。
- ごみの分別については、自分の地域のルールにしたがって可燃ごみ、資源ごみを分別しているので、自分のなかではやって当たり前という認識がある。学校のごみ箱などを見ると資源ごみにできるのと思うことはある。
- ごみをつぶしたり、かさ増ししないように配慮している。
- 使い捨てプラの使用を控える法律については知らなかったが、ニュースなどでマイストローを

使ってというようなことは聞いた。

- 母は、スタバなどの紙ストローの舌触りが嫌いで、金属製のマイストローを使っている。家ではプラ製のストローを見ることがなくなった。
- まちなかにペットボトルがポイ捨てされたりしていると、拾って近くのごみ箱に捨てている。
- ペットボトルや最近ではマスクなどがよく捨てられている印象がある。
- 駅周辺は、ポイ捨てが多いという印象がある。自分がごみを捨てたい時に近くにごみ箱がないからポイ捨てしてしまうのではないか。
- ごみの一斉清掃については、小学校の頃にお菓子目当てで参加していた。また、坂戸市はごみ袋が安いので、抑止力につながっているのか疑問である。

◆日常の省エネ行動について

- 省エネに関しては、日常的には節電に気を使っている。
- 自分の家では、リビングなどで家族と一緒に過ごすようにしている。
- 自分の家では、エアコンの使用を極力控えている。

【情報発信のアイデア】

◆情報収集について

- 環境のことについて自分から調べるといことはほとんどない。環境活動などについても学校からボランティア募集のこととか、内申が上がるからという理由で知ることが多い。そういうことがないと自分から調べることはしない。
- ひとりで環境活動に参加しようとは思わない。友達となら参加してみようかと思う。
- 学校から環境活動を紹介されて、楽しんでできるようなことなら、参加してみたいと思う。
- かわがールは、研究室のメンバーが中心に興味を持っている人達と楽しみながら活動をしている。地域の人たちと一緒にというようなことはあまりない。
- 例えば、学習講座など若年層限定にするなどのほうが友達同士で参加しやすい。
- SNS（ツイッター）を活用して情報を収集することが多い。ニュースなどはテレビなどより早く情報が拾える。
- ニュースなどで気になったことは、追いかけて深掘することもある。
- インターネットで検索することが多い。ツイッターはタイムリーな情報を拾うように活用している。
- 気になった情報は、グーグルなどで検索する。

◆環境関連のイベントなどについて

- 活動メンバーを募集するときに同じ趣味や嗜好を持つ人たちを集めるのも面白いのではないか。
- 趣味・嗜好をベースにすると、情報収集も閉鎖的になるので、追加の話題やおまけとして環境の情報が拾えるようにすればよいのではないか。
- スポーツ関連のイベントと連携した環境活動はどうか。
- プラゴミのカラフルさを使って、ストラップやバッジづくりをするイベントや講座はできないか。自作のものであれば、広めたいと思う。
- 子どもたちの着なくなった服を使って、パッチワーク講座も良いのではないか。
- 流行りのアニメやゲームなどとコラボすれば、興味を引きつけるのではないか。
- 不用品を新しいものに変えていくイベント、講座は面白いと思う。

- 子どもの興味を引きつけるということであれば、レンジャー系、ヒーロー系などは良いのでは。例えばごみレンジャーなど。キャラクターも市民から募集すれば、あわせて環境のことについても調べてくれるのではないか。
- 友達と一緒に参加できるものが良いと思う。

◆情報発信のアイデアについて

- 以前、プラスチックを使わない生活をしている動画や廃材のアートづくりの動画があった。動画を検索している時に興味を引いたものがあれば、視聴するのでそのような目に入りやすい情報発信の仕方もあるのではないか。
- 活字の情報より、視覚的な情報の方が目に留まりやすい。
- パッと見の第一印象がポイントだと思う。自分の嗜好と違うものであっても面白そうであれば、視聴したりする。
- SNSを活用するときは、情報量を調節することが大事。目にとまりやすい題名にすることが必要だと思う。例えば、坂戸のよさこいを活用するとか。
- SNSだけでなく、テレビのローカルニュースにあがるようなイベントなどをしないと広がっていかないのではないか。
- 発信した情報を学校のクラスで見られるようにするなどの工夫が必要。
- 今回のワークショップについても学校経由で知った。

● Bグループ

出席者：

- 学生（6名）
- 坂戸市環境政策課（1名）
- コンサルタント（1名）

【気になる環境問題】

- プラスチックごみについて、レジ袋などが川などに落ちている。レジ袋が有料になったが、お金を払っても使っている人が気になる。マイバッグを持っていても1回しか使わない人がいる。
- 生きものや外来種について、在来種やみどりが減っている。
- 食品ロスについて、食堂でも残しているのを見る。減らしていければ環境もよくなると思う。
- ごみのポイ捨てについて、通学路でも道端にごみが落ちている。
- 道路環境について、学校帰りなど道が暗いと感じる。狭い道はでこぼこしていて通りづらい。
- 地球温暖化について、CO₂などニュースになっていて気になる。
- 高麗川でかわガールという活動を行っており、大学院生や学部生が清掃活動などを行っている。
- 海洋プラスチック問題について、企業も脱プラスチックの取組を進めており、ストローが紙ストローになったりしている。

【坂戸市の環境の良いところ・改善してほしいところ】

◆良いところ

- 入西公園はみどりが多くてよい。
- 公園が多く、植物が豊かな公園がある。高齢者の方も運動ができ、住みやすいと思う。
- 自然が豊かでみどりが多い。
- 都心にも出やすく、夜は静か。都会と比べると住みやすい。
- 治安がよく、静かでいいところ。
- 駅の近くはお店も多く、にぎやかでよい。
- 災害が少なく、近所の方もやさしい。

◆改善してほしいところ

●ごみのポイ捨てについて

(現状)

- にっさい花みず木の高速道路周辺のパイ捨てが酷い。
- たばこの吸殻のポイ捨てが多い。大学では、駐車場から高麗川沿いが目立つ。
- 川にごみがひっかかっている。ペットボトルやコンビニの袋、プラスチック容器などを見かける。
- 駅や通学路でおかしの包装ごみをみかける。線路沿いや駅構内など。
- 歩道などにはごみはあまり落ちていない印象。

(改善のためのアイデア)

- ごみ箱を置いて欲しい。西大家の駅にはトイレくらいにしかない。駅にごみ箱を置いてほしい。

○目につくようなところにゴミ箱があるとよい。

○駅は、学生の乗り降りが多く、ゴミ箱があってもゴミがあふれてしまっている。

○ゴミを捨てる場所があればみんな捨ててしまうこともある。

○川角駅に以前ゴミ箱があったが、4年前からなくなってしまった。持ち帰ってほしいのでなくなったのか、ゴミ箱があるとカラスが食べるのか、何か理由があったのかと思う。

○市でゴミゼロ運動を行っているとのことだが、回数を増やしたらいいと思う。

○ポイ捨ての多い場所は、市民が一番よく知っている。情報を集めて、ポイ捨てが多い場所で重点的に活動するのもよい。

○生徒会に所属している。学校周辺のごみ拾い、他学年との交流でできるかもしれない。

●みどりについて

○住宅を建てるため、山が切り開かれたり、木が伐採されている。また植えても成長するまで時間がかかる。みどりが以前より少なくなっている印象。木を増やしたり、小さいもの、花植えなどみんなのできるといいと思う。

【市】○市では花のボランティア活動として自治会、団体、個人が花壇の整備を行っている。

○家を建てるときに、木を植えるようにするなど制限を設けては、落葉などの問題もあると思うが、葉が落ちない樹種もあるので、それを伝えるようにする。公園や道路でもその樹種を選んで落ちないことがわかると効果がある。

【情報発信のアイデア】

◆市のボランティアへのビブスの提供

○花壇のボランティアは知らなかった。まちで見かけたときに、市のボランティア活動だとわかるように、ビブスなどを提供してはいいのでは。

◆キャラクター活用、SNSでの発信

○坂戸市のゆるきゃら「さかろん」がボランティアに参加する。「さかろん」と一緒にボランティアをやってみようなど、子ども達にPRすることも考えられる。

○きぐるみの「さかろん」の写真や動画をSNSでアップする。面白ければ検索履歴からあがってくる。1回でも調べる必要があるが、ひきつけるような一言など。「さかろんと一緒にお花育ててみた」など。身近なものをキーワードに入れると、お薦めにあがってきやすい。

○大物YouTuberに協力してもらおう。発言力（インフルエンサー）がある人があるといい。例えば、はじめしゃちょーなどは、市全体を借りて鬼ごっこをして、自治体のPRをしている。「さかろん」などきぐるみと一緒にゴミのボランティア活動を一緒にやるなど。

○発信動画は短い方がよい。簡潔でわかりやすい方が数が打てる。

○Facebookの「いいね」を増やしていく。高麗川かわガールでも関係者がほとんどで外部の人たちからのアクセスが少ない。関係者間で「いいね」をお互いにしあうことで数を増やしている。「いいね」数が増えて、またそこから互いに「いいね」をし合うようにして増やしていく。

◆学校との連携

○小学校に協力してもらい、強制的にはなってしまうが、授業の一環として参加してもらおう。児童・生徒と一緒に保護者にも参加してもらい、そこから活動が広がる。

○学校の授業内でボランティア活動などを紹介してくれている。学校からクラスごとに生徒に声掛けをもらい、情報発信をする。

◆インセンティブの付与

○何かものがもらえるとよい。休日にわざわざ時間を使って参加するのは大変。ご褒美があるとよい。

◆**ポスターなどでの PR**

○自治会の回覧板などにたくさん情報を渡してみよう。

○全戸ポスティング。ただ、紙だごみになることもある。見るかどうかわからない。

○チラシでみるより、大きいポスターの方が目をひく。駅や大学などでポスターを掲示する。

○駅で見かけたポスター。写真だけで文字がないと目をひく。ごみが散らばっている川の写真だけで、小さく坂戸市と書いておく。

○ボランティア活動の様子などは堅苦しい。迫力があって人目に留まるようにする。まずは知ってもらうことが大切。

● Cグループ

出席者：

○学生（5名）

○坂戸市環境政策課（1名）

○コンサルタント（1名）

【気になる環境問題】

- フードロス問題や食に関することについて、コンビニなど、便利な生活を求めすぎて過剰供給になっている印象をもっている。
- 絶滅危惧種等の生物保護について、ホトケドジョウを大学で研究しているので、興味がある。
- 植物関連について、科学部に所属しており、植物を扱った実験として、草木染を複数回やってみた。草木染を通じた活動が楽しい。
- 衣類の廃棄について、服飾を学んでおり、洋服を作る立場になるので、簡単に廃棄されるのは悲しく思う。

【坂戸市の環境の良いところ・改善してほしいところ】

◆良いところ

- 個人的な印象として、自然が豊かなので、老後を過ごすにはいい場所だなと思っている。
- 絶滅危惧種の生息が多いと聞いているし、公園にはサギも訪れるので、地元よりは自然を感じることができる。
- 公園が多い印象があり、家の近くにも2か所ある。
- 駅周辺は栄えてるが、少し離れると木が多くなってきて、自然が豊かだなと感じる。
- 鳥がいっぱいいて、サギも見かけるし、見たことないような珍しい鳥も見ることができる。
(坂戸市内のおすすめスポット)
- 木に囲まれた場所が好きなので、千代田公園が好き。
- 入西公園は、川が流れていて穏やかなところなので好き。
- 公園の桜がきれい。小さい頃から桜は身近な存在で、近所の薬師公園でも見ることができる。
- 場所はわからないが、金木犀の香りがするところがあって、好きな場所。
- 川沿いでBBQもできるような自然が残っているところ。
【市】○桜は見どころが多い。春にはぜひ、花見に出かけてほしい。

◆改善してほしいところ

- 高麗川の清掃活動や生きもの観察をする中で、タバコのポイ捨てがとても目立つので、ごみのポイ捨てを改善してほしい。
- フィールドワークで入西公園に行ったとき、ごみが散らかっていた。
- 自転車の通学路で雑草が道路に飛び出しているところは、危ないと感じるので、「どんな自然でもあってよい」ということではないと思う。
- 林に不法投棄とか、ごみが捨てられてしまうので、適切に管理してほしい。
- 坂戸駅のごみ箱が撤去されたことで、余計にごみが散らかってしまった印象がある。
(改善アイデア)

- ごみを持ってると邪魔に思ってしまう、ポイ捨てにつながると思うので、エコバックのように、簡単に持ち運べてすぐ捨てれるものがあるとよいと思う。
- ごみ箱をたくさん設置すればよいというわけではないが、ペットボトル等のポイ捨ては、ハイキングコースやムービングバレーパークの林に多いイメージなので、適度に置いた方がよい。
- ごみ箱を増やしてよいと思う。駅にごみ箱を置いてほしい。

【情報発信のアイデア】

◆どんな SNS をよく使うか。

- Twitter
- ◎Youtube
- ◎Instagram
- Facebook
- TikTok

(投稿もしているが、投稿の時間帯によって見る人の層が変わるので、勘案したほうがよい。)

◆どんなきっかけで、興味を持つか。(自分の趣味から考察する)

- スポーツ観戦等が趣味。小さなスポーツチームがその土地に根付くには、地域からの応援が大事になる。ごみ拾い活動など、地域貢献によるつながりは大事に思う。
- Youtubeのゲーム実況を見ることが趣味。ゲーム実況者とコラボしたことで、化学実験にも興味を持った経緯があるので、応援している人がコラボすると、そのファンは自然と興味を持つきっかけにつながると思う。
- 韓国アイドルが好きなので、韓国の文化にも興味がある。韓国の環境問題(下水設備など)は日本より深刻で、アイドルが環境整備のために寄付したようで、それにファンも追随して寄付金が集まったという話を聞いたことがある。応援している人がやっていることに、ファンは興味があると思う。



第2回ワークショップ

- | | |
|------|--|
| ■日 時 | 令和4年11月27日（日）10時～12時 |
| ■参加者 | 大学生7名（城西大学6名、女子栄養大学1名）
高校生12名（坂戸高等学校（3名）、坂戸西高等学校（3名）、
山村国際高等学校（3名）、筑波大学附属坂戸高等学校（3名））
事務局（環境政策課職員）3名
コンサルタント（知識経営研究所）4名 |
| ■方 法 | ZOOMブレイクアウトルームを使用したグループワーク |



実施プログラム

- 1 開会あいさつ【事務局】
- 2 ワークショップ概要説明【コンサルタント】
 - 環境活動に関わる問題について
 - 討議テーマについて
- 3 グループセッション（自己紹介・意見交換）【3グループ：A、B、C】
テーマ3 市民や事業者、子どもから大人までが環境活動に参加できる仕組み・
工夫、イベントや情報発信のアイデア
- 4 各グループの意見発表【コンサルタント】
- 5 閉会あいさつ【事務局】

説明スライド

●スライド1

大学生高校生ワークショップ ●本日のスケジュール	
1 開会あいさつ	5分程度
2 討議テーマについて	105分程度
(1) 討議テーマについてのスライド説明	10分程度
(2) グループセッション：自己紹介・意見交換	80分程度
(3) 各グループの意見発表	15分程度
3 閉会あいさつ	5分程度

●スライド2

「第3次坂戸市環境基本計画」策定に向けた
坂戸の未来の環境を語ろう！
次世代環境ワークショップ

坂戸市環境産業部環境政策課
株式会社 知識経営研究所

●スライド3

●坂戸市の環境に関する取組み・方針

- 坂戸市では「第2次坂戸市環境基本計画」という坂戸市の環境や自然を守り、推進していくための方針をまとめています。
- この計画では「**みんなでつくる水と緑の住みよい環境のまち さかど**」を目標として、その実現に向け、様々な活動内容を定めています。
- しかし、近年の地球環境をめぐる変化は大きく、この計画を社会情勢に合わせて見直すこととしました。
 - ・カーボンニュートラル（低炭素化から脱炭素化へ）
 - ・気候変動への適応（環境への影響に備えること）
 - ・資源循環（使い捨てプラスチック、食品ロス）の問題
 - ・持続可能な開発目標（SDGs）

●スライド4

●環境活動に関わる問題

坂戸の環境をより良いものにしていくためには、行政だけでなく、市民や事業者の協力が不可欠

- 省エネ行動やごみの減量化や分別などの日常的な環境活動については、習慣として定着している。
- 地域ぐるみでの環境活動については、参加率が10%以下で低い。
- マンパワーを必要とする環境活動や、より積極的な省エネ行動やごみ減量活動を進めていくためには、参加率の向上に向けた工夫が必要

●スライド5

●環境活動に関わる問題

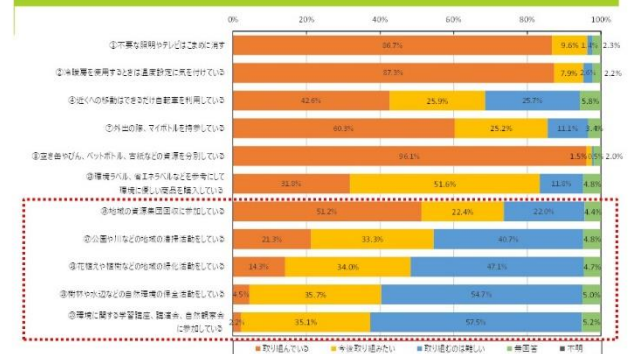
坂戸の環境学習講座・イベントなどの状況

テーマ	講座・イベント名
ごみ・リサイクル	●自治会等へのごみ学習会、●市内中学校での「4R推進巡回展示」、●(出前講座) 坂戸市のごみの現状～ごみを減らすためには～、●リサイクル家具の展示販売、●古本市、●入間川・越辺川・荒川クリーン協議会不法投棄物一斉撤去、●地域美化清掃活動(ごみゼロ運動)、●生ゴミたい肥づくり講座、●廃食油リサイクル粉石けんづくり、●バックdeセツケン、●古布を使った裂織体験教室、●古布を裂いて作る布ぞうりづくり、●クラフト講座(再生紙で作る買い物かご)
生き物・自然観察	●自然観察教室、●バードウォッチング、●ハニエウォーク、●体験講座(草木染、葉脈標本作り)、●自然はもたれ1ネイチャーラフト、●どんぐりのフローチづくり、●教えてミツバチ先生～ミツバチってどんな生きもの?～、●(出前講座) 花いっぱいのまちと大切な緑、●(出前講座) 飼い主のいない猫対策について
環境学習・環境教育	●小中学校への環境教育プログラム、●おもしろ実験教室、●夏休み自由研究教室、●市民環境講座(いずみ自然塾)、●生活環境講座～SDGsへの第一歩生活環境を学びませんか。～、●地球温暖化防止キャンペーンの実施、●環境紙芝居、●(出前講座) 坂戸市の環境(地球温暖化)、●(出前講座) 坂戸市の環境保全、●施設見学(西清掃センター、水処理センター)
その他	●いずみDAY、●えひめAI-2をつくらう

●スライド6

●環境活動に関わる問題

■環境活動への参加の状況 (坂戸の環境に関する意識調査 R4より)



●スライド7

● 環境活動に関わる問題

■なぜ環境活動に参加しないのか？（知識研調べ）

価値観・ライフスタイル	活動内容・活動のイメージ
<ul style="list-style-type: none"> 若年～中年世代の働き方が多様になり、活動に時間がとれない。 サラリーマンだと地域の環境について知る必要性がない。 環境に対する認識が低い。 環境活動に参加することが自体がハード。 環境活動は男性がするものという固定観念がある。 地区ごとに生活圏や行動範囲が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動が楽しくない、楽しめない。 環境では活動に集まってくれない。 自分の家の周りは草むしりや清掃など繁華から、地域の活動には参加しない。 人手・時間の問題があり、新しい参加者を呼び込むことに対応できない。
情報発信	参加するまでのプロセス
<ul style="list-style-type: none"> 自分には環境問題は関係ない、他人の課題。 今の人は自然を知らない、家のつくりも自然と切り離されている。 自治会に入る人が少なくなっているなど、市民の地域への愛着が薄い。 集合住宅の居住者は地域の活動に参加していかない。 自分からなくても誰かがやってくれると楽々している。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動が楽しくない、楽しめない。 一人でも参加することを勧誘している。 活動に興味はあっても参加のきっかけがない。 活動の入り口が分からない。
<ul style="list-style-type: none"> 人手・時間の問題があり、新しい参加者を呼び込むことに対応できない。 以前ほど環境問題が取り上げられない。 市のホームページから情報が届かない。 市広域以外からは情報が伝わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の成果が見えない、また、成果があっても周知していない。 広報で募集をかけても参加者が集まらない。 時代によって情報伝達に格差（メディアの活用割合）がある。 興味があれば、自分の情報を検索はしない。

●スライド9

● 本日のグループ討議テーマ

アイデア出しのヒント

楽しい、面白い、満足感（メリット）が得られる、継続できる、仲間で参加できる

子どもが興味を持つ活動
家族で参加できる活動
友達同士で参加できる活動

環境+a（スポーツ、グルメなど）のコラボ

●スライド8

● 本日のグループ討議テーマ

市民や事業者、子どもから大人までが環境活動に参加できる仕組み・工夫、イベントアイデアは？

- 市民の省エネ行動やごみ減量の行動を習慣化させるための工夫・アイデア
- 現在、実施している環境イベントの参加率向上に向けた工夫・アイデア
- 継続できる活動でも、単発イベントでも、思いついたことを、まずは出し合ってみよう

●スライド10

● 皆様をお願いしたいこと

- 発言をしたい時は、挙手アイコンか手を振って司会者に合図してください。
- 参加者全員が対等な立場にあり、自由な発言を行うことを尊重しましょう。
- 各参加者の発言を尊重し、はじめから否定したり、話しを遮るような発言をしないよう配慮しましょう。
- 各参加者ができるだけ多く発言できるよう、発言時間が長くないよう配慮しましょう。

グループセッション意見概要

● Aグループ

出席者：

- 学生（7名）
- 坂戸市環境政策課（1名）
- コンサルタント（1名）

【イベント等のアイデア】

- 高麗川で投網のイベントを実施していて、手伝いで参加したことがあるが、魚好きの小学生や低学年の参加が多かった。ごみ拾いとセットで行うことで、ポイ捨てが魚たちにも影響があるということ伝える。
- 楽しいことにプラスαとして環境のことを伝える。
- 昆虫好きなので、カブトムシなどの昆虫採集のイベントがあると良い。小学生グループの参加であればガイドをするのも面白そう。
- ごみ回収をしたもので、竿をつくる、網をつくって魚取りをする。
- 流れ着いているごみの形の個性さを活かしたモノづくりのイベントをする。例えば、1日目は、ごみのデコレーションでマイ竿をつくる。2日目は魚釣りをするといったことをすれば、子どもの印象に強く残るのではないか。
- 友達と落ちている笹の葉を使って、笹船レースをした経験があるので、そのようなことも面白いのではないか。
- バードウォッチングをする時の有酸素運動の効果を宣伝して、健康面から大人世代にPRするというのはいかがでしょうか。
- 実現できるかどうかはおいておいて、市全体を巻き込むようなイベントがあると良い。坂戸の良いところを使って、何かできないか。
- 事業所のCSR活動とからめて、事業活動を現場で体験できる機会があっても良い。
- 東松山市ではスリーデーマーチで盛り上がっている。子どもにごみ袋を持たせて森林公園でごみ拾いをし、一番集めた子どもに飴をあげるなどのインセンティブを与える。スリーデーマーチはウォーキングが目的だけでも、いっしょにごみ拾いができるといった環境面でのプラスαを自然に演出できる。
- トライアル形式のイベントなどは良いのではないか。学校のみんなで参加するといったことも必要ではないか。
- 高校生は文化祭に力を入れている。ただごみの量も半端ない。文化祭の飾りつけをごみのリサイクルで飾る、木の廃材をうまく使うなどの工夫をすれば良いのではないか。
- 環境に関連づけたレンジャー系のキャラクターを作成する。キャラクターを中学校・高校に募集し、市民に投票で決めてもらう。キャラクターは、環境イベント、動画などで活動するといった坂戸のイベントキャラクターづくりをする。
- レンジャー系のキャラクターづくりは、それぞれの分野に特化した人材が市内にいるはずなので、呼びかけをしてみるのも良いのではないか。

- 食品ロスの問題などに関連して、坂戸市産の食材や市場に流せない規格外品などを使って、小学生とエコクッキングができないか。自分たちの学びにもある。
- レンジャー系にエコクッキングを教えてもらえれば、子ども達は忘れないのではないか。

【イベント開催等の工夫について】

- 大学でSDGsを食にからめて活動しているので、大学生・高校生が小学生の講師になる。子ども達が気軽に参加しやすく、わかりやすい形で教えることも重要ではないか。
- SDGsも堅苦しい感じではなく、かみ砕いて伝えられればと思う。
- 学校のみinnで参加できるイベントのほうが参加しやすそう。一步踏み出せない子も、参加しやすいのでは。
- inninnで参加してみたら楽しかった、また参加したいというようなことが大事。
- 先生から軽く言われているだけなのに、inninnで参加してみたら楽しかった経験があるので、そういう視点は大事だと思う。
- 学校単位から、地区単位の取組みへと大きく広げていく視点も必要。
- 環境学館いずみを活用して、若い世代が集まって何か一緒にできる場、高校生・大学生が小学生などに教えられる場になると良い。
- 持続可能な社会をつくるためには、できる活動を持続させていくことが大事だと思う。環境活動大臣賞を受賞できるのであれば、坂戸市をもっと知ってもらえる。大きい目標を掲げて小さい活動を積み上げていくことも重要と思う。

● Bグループ

出席者：

- 学生（6名）
- 坂戸市環境政策課（1名）
- コンサルタント（1名）

【イベント等のアイデア】

◆ポイ捨て・ごみ

- 参加しやすいような工夫が必要。ごみ拾いなどはウォーキングイベントと組み合わせる。環境にも貢献できて、健康にもよい。イベントのあと、みんなで食事をしたり、景品などがあるとよい。
- 休みの日のごみ拾いイベントの後に、すいおう芋など坂戸市の特産品の販売会と特産品を使った食事会があればいいと思う。農家の方の宣伝にもなる。
- スポーツと環境の組み合わせはいいと思う。
- ごみ拾いの大会を行う。ごみの量を量って沢山集めたところに景品など。また、集めたごみのなかで、使えそうなものを売り出す。
- ごみの重さを量って、その分ポイントをつけて、ポイントカードでためていく。そうすると何回も参加するのではないか。
- どういうところにごみが多いのか、それをクイズにして、そこまでたどり着けるようなイベント。ウォークラリーのような形式。
- プラスチックごみやペットボトルなどごみをつかってものを創るイベントなども考えられる。
- ごみ拾いイベントなどで集めたごみを芸術家に預けて、作品にしてもらったものを販売し、私益を芸術家と参加者で分配する。トートバックやショッピングバックなど。空き缶を平たくしてつけるなど、かっこいい、かわいいと思われるようなものができるといい。
- 文化祭で以前は段ボールを買っていたが、学校で廃棄する予定の余った段ボールを使用している。学校のイベントで、ごみになるものをリユースして使うこともできると思う。

◆地球温暖化対策

●普段取り組んでいること

- 学校の教室の消灯は最後に出る人が個人的に実施している。空調は係がいる。
- 学校の空調は集中管理で使う時間が決められている。残る場合は申告制。
- 学校で寒い時はブランケットをもってきたりしている。
- 授業で地球温暖化のテーマがあり、日常でできることのグループ発表をした。地産地消や自家用車に乗らずバスを使う、日々日常で気を付けるという話になった。
- 大学は高校生と比べてあまり意識はないと思う。研究室は24時間冷凍庫を使っていたり、エレベーターも使うし、ごみも多い。ごみは燃やすとCO₂を出す。改善できるところもあると思う。
- 大学生は高い学費を払っているという意識もあり、なかなか取り組まないところもある。研究で週末に大学に行くと全てのフロアで電気がついていることもある。消したらダメなものもあるのであろう。削減するのであれば、大学側から学生に注意喚起をしたらいいと思う。

●地球温暖化対策のイベント

- 水素自動車や電気自動車（EV）の展示会。子どもたちに来てもらい、憧れをもつことで、10年後20年後には買ってもらえるのではないかな。
 - 水素自動車を都心の方で見たことがあるが、普通のバスと異なりかっこいいと思った。かっこいいと乗ってみたいくなる。乗りやすい、他と違うことがわかり易いなどがわかるかっこいいと思う。
 - 夏休みの自由研究などで、ペットボトルとプロペラで風車をつくって電気をつくったり、牛乳パックでソーラーパネルをつくったりなどがある。太陽光の実験やごみを使った学習イベントなどがあるとよい。
 - 省エネのクイズや講演会、体験などもあるイベントがあるとよい。まずは知ってもらうことが大事。実践してもらえる体験ブースがあるとよい。その際、動画も一緒につくり、簡単にできることがアピールできるとよい。
 - 学校や高校の授業として行ってもいいと思う。このようなワークショップで考えを深めあう、継続してやっていくこともいいと思う。
 - 太陽光パネルをつけているところが少ないと感じる。市が何割かお金をだしてあげれば増えると思う。
- 【市】○家庭向けに太陽光パネル、燃料電池、蓄電池に補助を行っている。
- 埼玉おごせの森の木の皮むきボランティアに参加した。日本の森林は放置されていて、CO₂の吸収量が減少している。切られないより切って売った方が木の吸収量が増える。木の皮むきをすると、木をきらなくても枯れていき、間引きの形になる。坂戸市でも積極的にするのいいと思う。

【より多くの人に参加してもらうには】

- 参加したら何か特典をもらえるといいのではないかな。改めて一人一人が意識を改めていかないといけないと思った。このような環境セミナーに積極的に参加してもらうことが必要。
- わざわざ参加するとなると、いざ行くとなるとおっくうになることもある。個人で日常的にポイントがたまるようなものがあると、やりやすいと思う。1日のすきま時間でできるようなもの。手間がかかると参加しづらいので手軽にできるとよい。
- 学生はポイ活などこつこつ続けるものはひびかないと思う。その場で簡単に実践できるもの、コツを教えるなど。特典として食べ物などその場でもらえるものかいいと思う。
- 講演会などはわざわざその会場にいかないといけない。オンラインでの開催があると移動の時間も省けるし、より多くの人に参加できる。有名な人に一緒に講演会を聞いてもらうことも考えられる。

● Cグループ

出席者：

- 学生（6名）
- 坂戸市環境政策課（1名）
- コンサルタント（1名）

【イベント等のアイデア】

◆坂戸市の良いところ・改善してほしいところ

○河川の上流は綺麗で良いが、下流にいくと栄養の流出で藻が繁殖して、見た目がよくない印象がある。

◆興味のある環境講座やイベントはどれか

○小中学生のころ、施設見学は実際に体験したことある。水処理センター等に訪れた記憶があり、小さい子にとって現場を見学することはワクワクすることだと思う。

○草木染があるので、どういふことをするのか興味がある。環境講座であることは知らなかった。

○川沿いを歩いていて、漠然と鳥がいることは知っているのだから、バードウォッチングで知識ある方に教えてもらいながら観察すると楽しそう。

○飼い主のいないネコの対策という講座があることに驚いた。野良ネコがいても普通に思うので、対策を考えるという発想が意外だと感じた。

○廃食油リサイクル粉石鹸づくり等、体験ができるものは面白そう。

【市】○給食の廃油を集めて、固形せっけんや粉せっけんを作る施設が環境学館いずみにある。

○「教えてミツバチ先生」は楽しそう。学校でミツバチを飼っており、農業にとって重要な存在と教わったので、興味がある。

【市】○養蜂について大学で教鞭をとられた方が坂戸に移住されており、講師を担当してくれている。

○古布を裂いて作る布草履づくり。藁などで作る草履よりも履き心地がフワフワするので、夏に家で使うとちょうどよいと思う。

○自然観察が好きななので、紅葉の季節だし興味がある。

◆自分が環境講座やイベントを企画するとしたらどんなことがやってみたいか

○古くなったり着なくなった服を使ってエプロンを作るのは、比較的簡単なので、イベントに向いていると思う。

○体験型のモノづくりがよいと思う。自然観察しながら材料集めをして、ツリーやリースを作ると楽しそう。

○化学実験と絡めて、カラー消しゴムなどの文房具を作る講座は楽しいと思う。

○お祭りみたいな、いろんな体験が少しずつできて、友達と参加しやすいイベントであれば、とても興味がある。

○高校間コラボで、ファッション系を勉強している学校と、草木染とかやっている部活がある学校が、お互いに得意なことを活かして作り上げるのは、やってみたい。（文化祭でファッションショーなど。）

- スマホを使って宝探しをする学校行事があって、それがすごく楽しかった。ミッションクリアで、ポイントがもらえるという内容だったので、そのミッションに坂戸の環境を知ってもらような内容をするとういと思う。
- 地域に有名なスポーツチームがあれば、一緒に参加してごみ拾いやモノづくりを体験できるとなると、結構面白くなると思う。
- イベントに有名な人を呼んで、集客数を増やすこともいいと思う。
- 高校や中学校間のコラボもすごくいいと思う。住民主体の企画の方がいいと思うので、例えばフリーマーケットのような、住民の方で企画して住民のみんなが参加してといった方が、より魅力的に感じるし、参加しやすいのではないかな。
- 若い人の視点からだと、流行りのもので興味をそそるようなイベントだとういと思う。

【より多くの人に参加してもらうには】

- 知ってもらうための広報は難しい。市役所にポスターが貼ってあっても頻りに市役所へ行く人は少ないと思うので、目に留まらない。カインズホームなどのホームセンターが主催しているハンドメイド教室はよく目に留まるので、子供の目にも留まりやすいと思う。
- 体験系の方が、参加しやすいと思う。
- 一人だと参加しにくいので、友達同士で気軽に参加できるような募集方法がいいと思う。
- 一つだけの体験のだけでなく、複数の体験を気軽にできるイベントだと、より参加しやすいかもしれない。
- 【市】以前は産業展と同日に環境展をやっていた。今は環境学館いずみで、いずみDAYを充実させていく方針に切り替え、フリーマーケットや電気自動車の展示、養蜂の展示などを行っている。
- 小学生向けにお菓子などのものをあげると、興味を持ってもらえると思うし、学校で話してくれたら、広まると思う。
- イベントの告知の方法で、学校からのお知らせの方が情報を得やすいのではないかな。なおかつポスターにキャッチーな名前だと興味をひきやすいと思う。
- オンライン授業が導入されて、ネットワーク通信を使う機会も増えたので、Teamsの連絡用掲示板にある情報は、紙媒体よりも、目に留まると思う。
- 発信するものの見た目や見やすさは重要だと思う。目を惹くような、イラストが必要。



今後に向けて

参加学生の感想

- 最初は何を話せば良いのか分からなかったけど雑談で良かった。思っていたよりもカジュアルな感じで楽しかった。
- 人にものを伝えるとかは得意じゃないけど、他の人の意見を聞いて視野を広げていけたので良かった。
- ワークショップは初めてだったけど、思っていることより重大なことが起きていることを実感した。危機感も確認できた。
- 何を話せば良いのか分からなかったけど、視野が広がって、自分に何ができるだろうと考えることができて良かった。
- 他の人の意見を聞けたり、アイデアを深堀出来たりして楽しかった。
- 環境問題について色々な話ができ良かった。自分には思いつかないような意見やアイデアを聞くことができて良かった。
- 一人の意見をブラッシュアップしていくというのは楽しかった。PDCAの最初の一步について議論できて良かった。
- 皆で意見交換をすることで、面白いアイデアが出てきてよかった。
- 大学生や市の職員の人などがいて気持ち緊張していたが、堅苦しくなく自分の意見が言えてよかった。楽しかった。
- 他の高校の人と交流する機会にもなり、色々な意見も聞いてよかった。
- 自分のなかでも改善点があるというもわかった。
- 環境への意識が高まった。次に何をやってみようか、どんどん活動してかないといけないと持った。
- また同じようなものがあったら、友達にも教えたい。
- みんなしっかりとした考えを持っていてすごいなと思った。楽しくできてよかった。
- 高校生や市の職員の方と話せる貴重な機会だった。もっと規模が大きくなれば、良い案が出てくると思う。
- 堅いイメージがあって緊張していたが、ラフな感じで自分の意見もたくさん言えた。
- 改めて自分が住んでいる市のことを調べ考える時間となり、気づきがあるよい経験となった。
- 「環境」というテーマに身構えていたが、小規模な感じでラフにおしゃべりできて、吸収もできたし楽しかった。
- 自分の知らなかったことを知れてよかった。環境分野が好きであることを再認識できた。
- 普段関わることができない皆さんと交流できて刺激になった。

施策や情報発信方策への展開に向けて

個別具体のアイデア・意見については、今後検討予定の環境施策の展開方針や内容に活用させて頂くとともに、下記情報発信及び事業実施の現場における工夫、改善点、イベント等の企画アイデアとして参考にさせていただきます。

●興味をひきつける情報発信の方法の検討

- ・坂戸市の環境をPRするポスターや動画の募集
- ・キャラクターを活用した情報発信
- ・インフルエンサーと連動した情報発信
- ・学校との連携による情報発信 など

●参加したくなる講座やイベントの企画、運営方法の検討

- ・学生と共に企画・運営する機会の創造
- ・学校間の交流が生まれるイベント企画
- ・特典やインセンティブのあるイベントやプログラム
- ・ウォーキングや農産物販売会など他分野と連携したイベント
- ・体験型講座や展示イベント
- ・ゲーム要素を取り入れた学習型イベント
- ・複数のモノづくりや体験が少しずつ楽しめる環境祭の充実
- ・オンライン型などより多くの人に参加できる開催方法の検討 など